

大型車のタイヤ脱着作業・保守管理状況に係る調査 ヒアリング調査・分析結果報告（概要）について

株式会社N X総合研究所

1. ヒアリング調査の概要

(1) 調査の目的

- 大型車のタイヤ脱着作業は、大型車の使用者やタイヤ専門店、自動車整備事業者等、様々な作業者により実施されるため、点検・清掃等を含むタイヤ脱着作業内容や、タイヤ脱着後の保守管理状況にバラツキがあることが推測される。
- タイヤ脱着作業や日頃の保守管理状況等の市場実態を把握するため、「**タイヤ脱着作業に関するヒアリング**」、「**タイヤ保守管理に関するヒアリング**」を行い、タイヤ脱落事故に係る要因について調査・分析する。

1. ヒアリング調査の概要

(2) タイヤ脱着作業に関するヒアリング

表 ヒアリング対象者

	貨物自動車 運送事業者		タイヤ専門店		自動車整備事業者		旅客自動車 運送事業者	合計
	事故惹起 事業者	その他 事業者	事故惹起 事業者	その他 事業者	事故惹起 事業者	その他 事業者	その他 事業者	
北海道	2	1	1	2	1	1		8
東北	2	1	1	2	1	1		8
関東	2	1	1	2	1	3	2	12
北陸信越	2	1	1	2	1	1		8
中部	1	1	1	1		1		5
近畿	1	1	1	1		1		5
中国	1	1	1	1		1		5
四国			1					1
九州	1		1					2
合計	12	7	9	11	4	9	2	54

※1 北海道、東北、関東、北陸信越は基本的に現地の事業所、それ以外の地域はオンラインでのヒアリング（例外あり）

※2 本資料では、36者へのヒアリング結果をまとめている。

1. ヒアリング調査の概要

(3) タイヤ保守管理に関するヒアリング

ヒアリング対象事業者

	貨物自動車 運送事業者		自家用貨物自動車 使用事業者	旅客自動車 運送事業者	合計
	事故惹起 関係事業者	その他事業者	その他事業者	その他 事業者	
北海道	3	1			4
東北	3	3			6
関東	3	2	1	2	8
北陸信越	3	2			5
中部	1	1			2
近畿	1	1			2
中国	1	1			2
四国	0	0			0
九州	1	0			1
合計	16	11	1	2	30

※1 北海道、東北、関東、北陸信越は基本的に現地の事業所、それ以外の地域はオンラインでのヒアリング（例外あり）

2. タイヤ脱着作業に関するヒアリング結果（概要）

（1）ホイール・ボルト、ナット等の確認や交換等について

①ホイール・ボルト、ナット、ディスク・ホイール及びハブの清掃状況

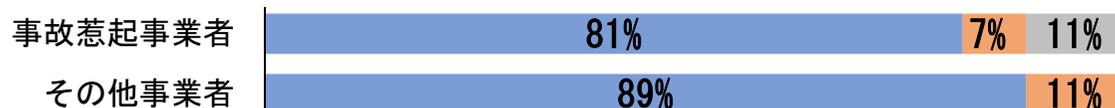
- 事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、ホイール・ボルト、ホイール・ナット等の清掃を行っていない傾向。

ホイール・ボルト、ホイール・ナット等の各部位の清掃状況

【ホイール・ボルトの清掃状況】



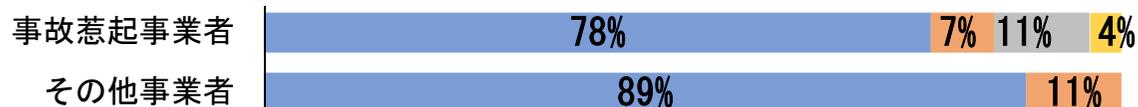
【ホイール・ナットの清掃状況】



【ディスク・ホイールの清掃状況】



【ハブ面の清掃状況】



- 全タイヤ清掃している
- 稀に清掃しないことがある
- あまり清掃していない
- 清掃していない

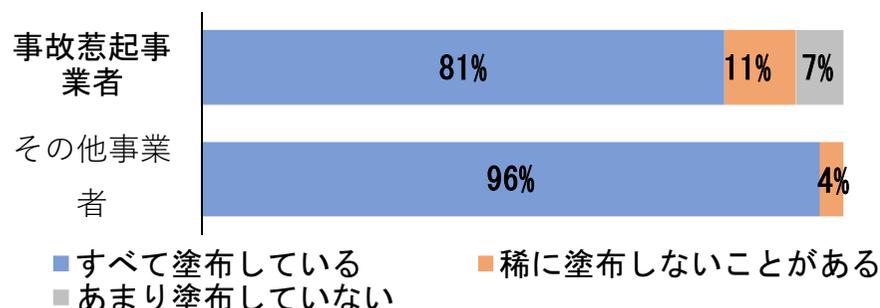
2. タイヤ脱着作業に関するヒアリング結果（概要）

（1）ホイール・ボルト、ナット等の確認や交換等について

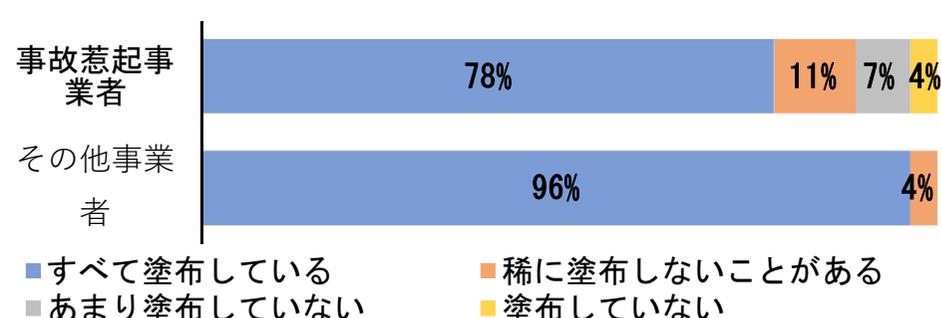
②ホイール・ボルトやナットのねじ部・摺動部の潤滑剤塗布状況

- ・事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、ホイール・ボルト、ホイール・ナットのねじ部・摺動部への潤滑剤の塗布を行っていない傾向。

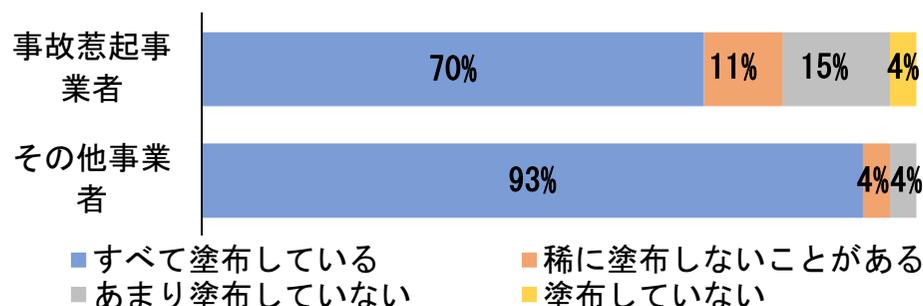
ホイール・ボルトねじ部の潤滑剤の塗布状況



ホイール・ナットねじ部の潤滑剤の塗布状況



ホイール・ナットとワッシャの摺動部への潤滑剤の塗布状況



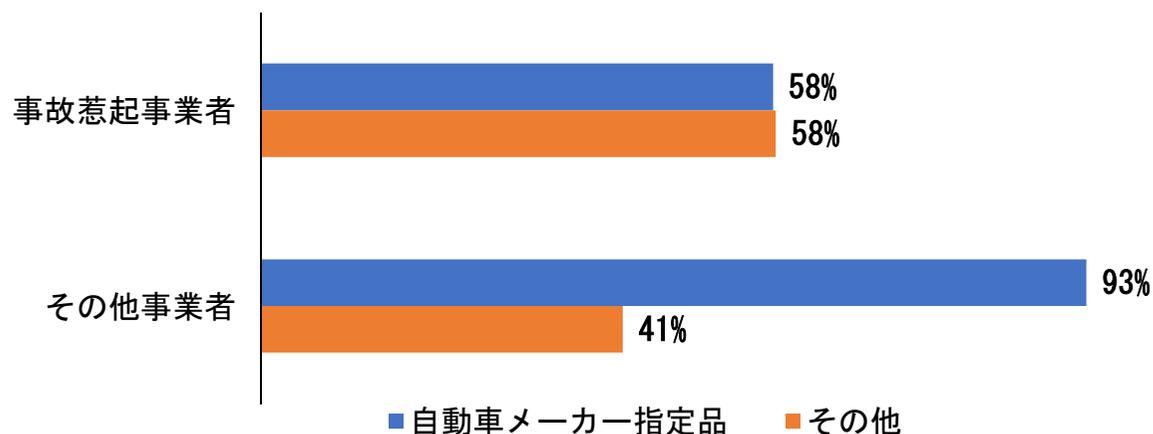
2. タイヤ脱着作業に関するヒアリング結果（概要）

（1）ホイール・ボルト、ナット等の確認や交換等について

③使用している潤滑剤

- 多くのタイヤ脱着作業関係事業者で、自動車メーカー指定品とその他の潤滑剤を併用していることが多い傾向。
- 特に、半数以上の事故惹起事業者では、自動車メーカー指定品以外の潤滑剤を使用していた。

使用している潤滑剤の種類（複数回答）



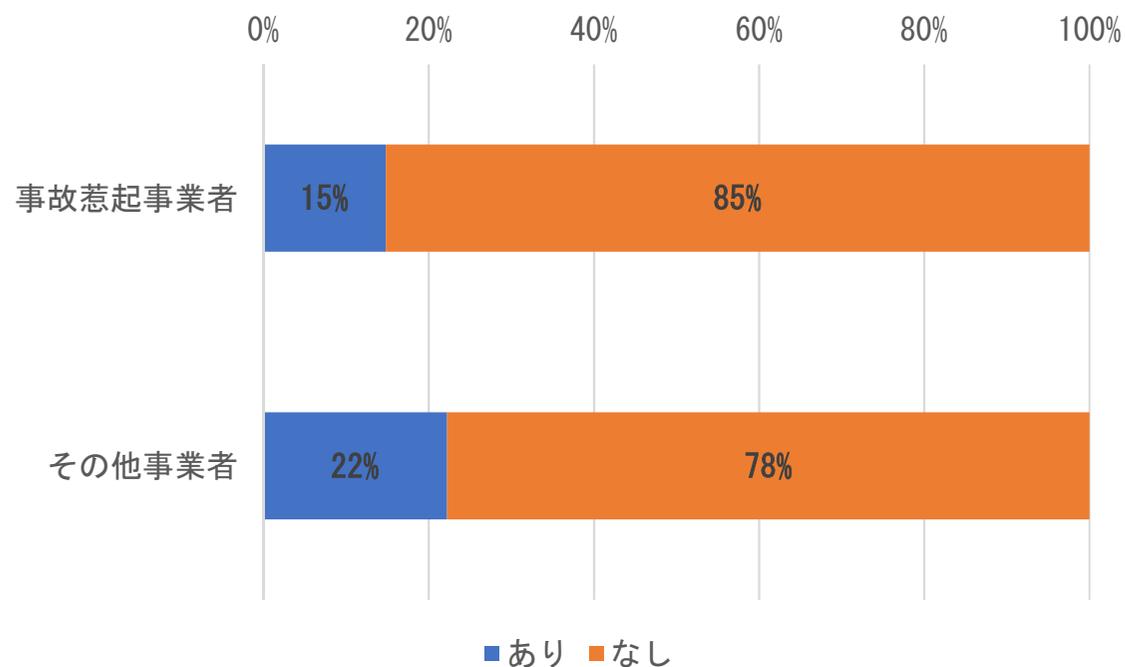
2. タイヤ脱着作業に関するヒアリング結果（概要）

（1）ホイール・ボルト、ナット等の確認や交換等について

④ホイール・ナットの交換の際の確認項目

- 多くのタイヤ脱着作業関係事業者で、ナットが円滑に回転するかどうかを交換の際の確認項目としていなかった。
- 事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、ナットが円滑に回転するかどうかを交換の際の確認項目としていない割合が若干多い傾向。

ナットが円滑に回転するかどうかを交換の際の確認項目としている



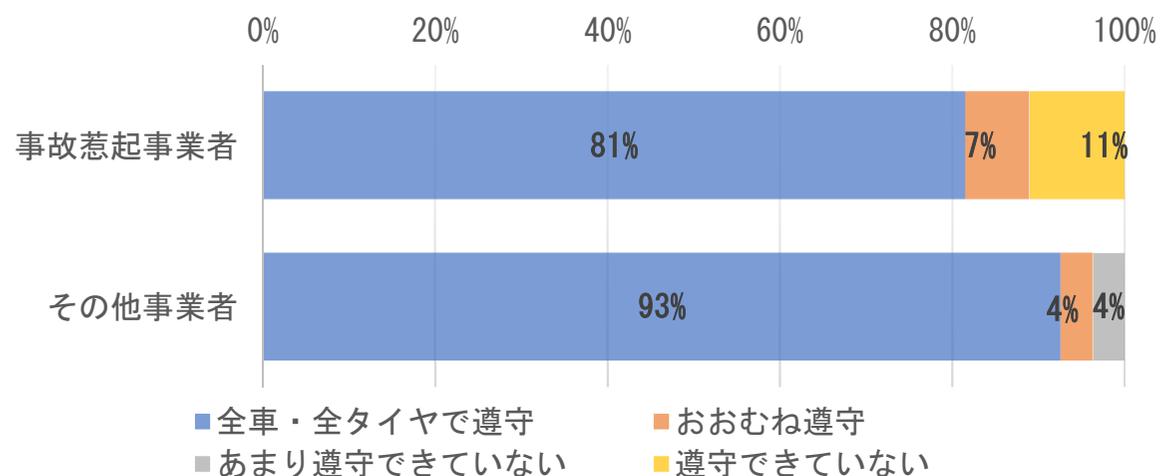
2. タイヤ脱着作業に関するヒアリング結果（概要）

（1）ホイール・ボルト、ナット等の確認や交換等について

⑤ホイール・ナットの締め付け時のトルク管理や規定トルク値の遵守状況

- ・事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、トルク管理等を遵守できていない割合が多い傾向。

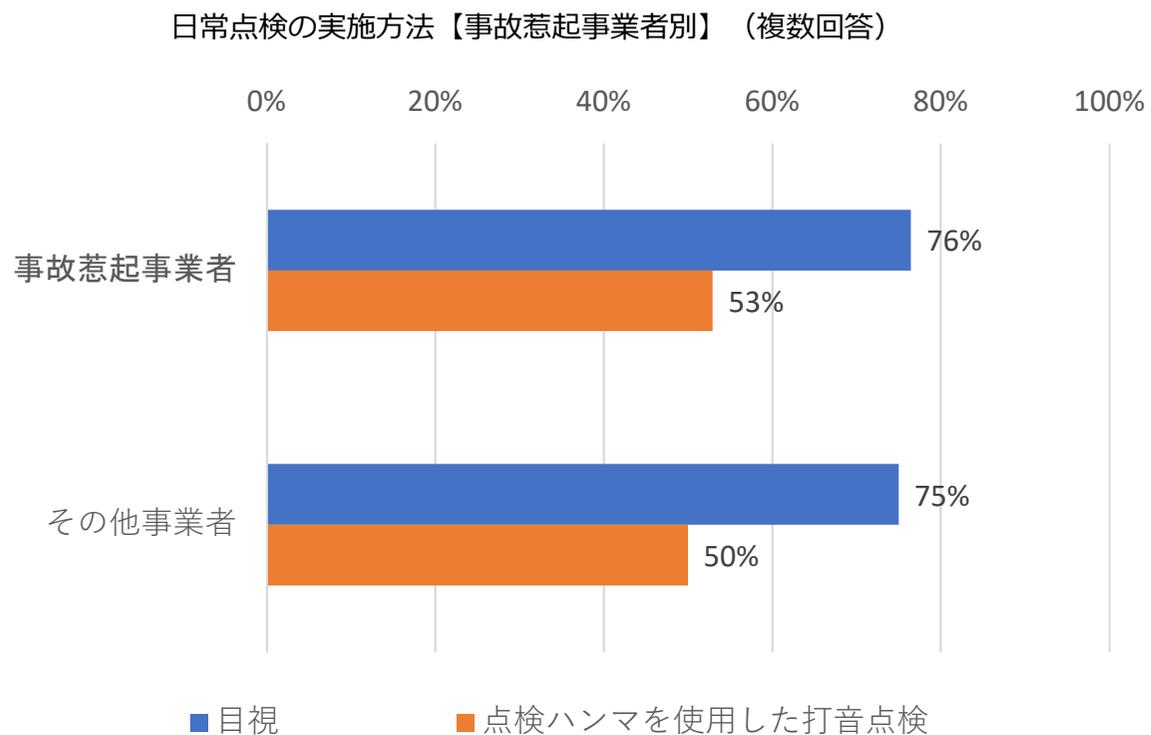
トルク管理や規定トルク値の遵守状況【事故惹起事業者別】



3. 保守管理状況に関するヒアリング結果（概要）

日常点検の実施等について

- 事故惹起事業者とそれ以外の事業者で、日常点検の実施方法に違いは見られなかった。



4. ヒアリング調査・分析結果（概要）のまとめ

(1) タイヤ脱着作業について

- ◆ 事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、ホイール・ボルト、ホイール・ナット等の各部品のさびや汚れ、損傷等の点検、清掃、潤滑剤の塗布が適切に実施されていない傾向にあることが確認された。
- ◆ 特に、約3割の事故惹起関係事業者では、ホイール・ナットとワッシャーの摺動部への潤滑剤の塗布が、適切に実施されていないことが確認された。
- ◆ 半数以上の事故惹起事業者では、自動車メーカー指定品以外の潤滑剤を使用していることが確認された。
- ◆ 事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、トルク管理等を遵守できていない割合が多い傾向にあることが確認された。
- ◆ ホイール・ナットについて、多くのタイヤ脱着作業関係事業者で、ナットが円滑に回転するかどうかを交換の際の確認項目としていなかった。また、事故惹起事業者のほうがその他の事業者に比べ、ナットが円滑に回転するかどうかを交換の際の確認項目としていない割合が若干多い傾向であることが確認された。

(2) 保守管理状況について

- ◆ 事故惹起事業者とその他の事業者で日常点検の方法に違いは見られなかった。

(注) 事故惹起事業者の回答については、事故惹起後のものであることに留意が必要。